

「信用してほしい」

思い出してみますと、私が敦賀教会に着任すると決まった時、私の母教会にいる友人たちと「敦賀に行ったら、越前ガニ買って、また奈良まで遊びに行くからね」と言ったきり、はや8年の歳月が過ぎてしまいました。未だにカニをご馳走できてはいないのですが、そのことに対する苦情も最近届かなくなっていまい、すでに私の信用は地に落ちていると言えます。次の冬こそ、信用挽回のカニを振る舞うことができるよう今からちょっと計画してみようかと思っています。なんて言う私の言葉にさえ、もう信用は無いのかも知れませんが……。有言実行を期して参る所存です。

と言うような、私と友人とのカニに関する約束は、私と友人の関係性を揺るがすほどの大したものではありませんが、約束を守らないという行為は、通常、ひどく人間関係を損なわせ、場合によっては修復不可能な断絶を生むことがあります。だから、私も小さい頃から、約束したことは必ず守るようにと教えられてきた記憶があります。

しかし、これも自分の人生を振り返ってみれば、たくさんの約束を反故にしてきてしまったなあ、と思います。先のカニの話は可愛いもので、友人とのもっと重要な約束を守れなかったり、仕事上の大切な約束を履行できなかったり、そういう過ちの経験もあります。そう言う時、友人や相手方は、表面上、優しく繕って「大丈夫」と言ってくれはしましたが、それでも私の信用は、その都度、間違いなく目減りして行ったのだろーと思います。信用を守るのは、結構気の張る、労力を要することだと感じています。

この「信用」という言葉について、今回の説教を考えるにあたり、色々と調べてみました。すると、なかなかどうして、奥の深い言葉です。文化人類学的な点から言えば、これは個人の徳目とか、

人間性の素晴らしさを表す言葉ではなくて、つまり、「信用される人」という風に立派な人間を評価する言葉ではなくて、私たちの社会を構成する重要なルールの一つと言えます。また、原始時代に比べると、随分と複雑になった現代社会にあって、私たちが信用するのは、人間個人ではなくて、組織や団体であることもたくさん増えてきました。例えば、私たちが使うお金は、日本という国を信用するから初めて価値が生まれるものですし、大切な個人情報や渡してまで手に入れる携帯電話は、電話会社を信用しないと使うことはできません。どんなに疑い深い人でも、かなり多くのものを信用しないと生きていけないのが、この現代社会の特徴と言えるかも知れません。

キリスト者になって、自分と関わり合いのある存在が、自分の隣人や国や社会だけでなく、神様やイエス様も含まれてくるようになって、私の信用問題は、さらにちょっと広がってしまいました。果たして、私は神様やイエス様の信用を勝ち得ているのだろうか、と。隣人に対しても、満身に約束を守れてきた自信がない私にとって、神様やイエス様との約束、たとえば「人を愛します」とか「良い言葉を語ります」とか「献身に徹します」とか、さらに守れている自信が無い、と言うのが正直なところです。

そんな私にとって、今日の聖書の御言葉は、とても刺さりますね。「しかし、イエス御自身は彼らを信用されなかった」と。最後の晩餐の場面で、イエス様に「裏切り者がいる」と言われて、「まさかわたしのことでは」と言い合ったとされる弟子たちのように、「信用されなかった」のは、まさか私のこともですか、と思えてしまいます。御言葉に聴くと言う姿勢を強くするなら、そう言う読み方もできてしまう、そんな聖書箇所であると思います。果たして、私は、イエス様に信用されるに足る信仰者なのか、どうかと。

もっとも、だからと言うことで、いくら取り繕ったとしても、イエス様は「何が人間の心の中にあるのかをよく知っておられる」と言うわけですから、付け焼き刃の浅知恵を働かせたとて、イエ

ス様にはすべてお見通しということになります。今日の聖書箇所は、とても短いけれど、問われている内容は、とても深くて重たいものです。私たちは、「救い主イエス様を信じています」と告白して「奉仕と献身を志します」と約束して、キリスト者となりました。その最初の告白と約束を振り返り、今の自分の様子を見直してみることも、大切な信仰の営みでは無いかと思います。

と言っても、特別卑屈になって、自分の至らなさに打ちひしがれる必要はありません。ただ、私たちが謙虚に、素直に神様を見上げて、イエス様の道を歩むために、自分の中の信仰を時々点検してみるわけです。神様も、イエス様も、深く無償の愛であるアガペーを注がれる方ですから、もちろん、告白を違えて、約束を守れない私たちのことを、それでも尚、愛してくださるでしょう。小さな子ども達が、悪戯をしたり、嘘をついたりしても、「まあ、子どもはそう言うものだよね」と思って、叱りつつも、全く愛情が薄まらないように、神様とイエス様にとっても、私たちの様々な不履行、言葉と行いの不足は、赦され、覆われ、私たちの感謝の祈りへと変わって行くものです。

でも、やっぱり大好きなイエス様だから、「それでも信用されたい」と私は思います。どんなに努力しても、完璧にはなれないし、その努力が却って、間違いを誘発することもあるかも知れません。人間の考えることが、神様とイエス様の御心を完全に満たすことは不可能でしょう。でも、それがイエス様の信用を勝ち得なくて良い理由には、多分ならないと思います。「どうせ、私なんてダメだから」とか「御心に沿うなんて無理だよ」とか、もちろん、そうなのかも知れないけれど、でも、少しでも御心に適うように。洗礼を受けた時の、瑞々しい信仰告白と、その時に志したキリスト者としての約束を再び思い出して、今の歩みを整えて参りたいと思います。

「もう、そんなの忘れてしまったよ」という場合も、もしかしたら、あるかも知れませんが、たとえば私の経験ですと、洗礼を受ける前に、真剣な顔して「キリスト者になったら、お焼香とか、どうしたらいいですか？」と先輩に尋ねていた、初々しい思い出があります。でも、その時の私と

いうのは、キリスト者になると、生活が変わる、人生が変わる、という良くも悪くも、壮大な期待をしていたわけですね。「キリスト者になっても、別に何も変わらないよ」とか、擦れたことは思わず、本当に神様に御前に立つこと、イエス様を受け入れることの重大さを感じていた。その感覚って、信仰歴が長くなるほど、思い出していたいな、と思います。

私たちは、神様によって特別に取り分けられた、この世の素晴らしい実りであり、キリストの身体を支える尊い肢であります。そのことを、今一度再確認して、大好きなイエス様に信用されるよう、イエス様の信頼を得て、用いられるよう、日々の行いを整え、祈りつつ、自らの働きをしっかりと熟して参りましょう。お祈りをいたします。

神様。

今日も私たちをこの礼拝堂へと招いてくださり、感謝致します。あなたとイエス様は、人智を超えた知性で、私たちの心を見抜き、偽ることのできない、ありのままの私たちを受け止め、愛してください。そのことに安らぎと慰めを感じつつ、しかし、なお、あなたの御心に適う信仰者として、隣人のために、あなたのために奉仕することができますように、私たちの歩みを支え導いてください。あなたの尊い肢として、良きキリストの香りを纏うことができますように。

このお祈りを大切なイエス様のお名前を通して、あなたの御前にお捧げ致します。